

## △ポンターールカプセル・△シロップ [内]

【重要度】 【一般製剤名】メフェナム酸 (U) mefenamic acid 【分類】鎮痛・消炎・解熱剤

【単位】▼125mg・△250mg/Cap, △シロップ 3.25%

【常用量】■術後・外傷後の炎症及び腫脹の緩解, 消炎, 鎮痛, 解熱: 1回 500mg, その後6時間毎に1回 250mg ■急性上気道炎の解熱・鎮痛: 1回 500mg を頓服  
[原則1日2回まで, 1500mgを上限] ■小児用量: 6.5mg/kg 頓服 [1日2回まで]

【用法】分3~4(食後)、投与間隔を4時間以上あけること ■空腹時投与を避ける

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (Am J Hosp Pharm 37: 956-958, 1980) 【その他の報告】50%に減量 (3) 避ける (17) 【CRRT】避ける (17)

【保存期 CKD 患者への投与方法】腎障害悪化の恐れがあるため、できるだけ投与しない (5) Cr 10mL/min 以上: 減量の必要なし, Cr < 10mL/min: 腎障害悪化の恐れがあるため禁忌となっているが減量の必要はない (5,12) 【その他の報告】GFR 10mL/min 未満: 50%に減量 (3) GFR 50mL/min 未満では消化器毒性, 腎毒性から投与を避ける (17)

【特徴】鎮痛作用が強い。解熱作用もあり即効性もみられるので、急性上気道感染症にも用いられている。

【主な副作用・毒性】出血性大腸炎、下痢、溶血性貧血、顆粒球および血小板減少、ショック、肝障害、急性腎不全、間質性腎炎、ネフローゼ症候群、胃腸障害、喘息発作誘発、精神神経症状など

【モニターすべき項目】BUN、血清Cr、血清K、ヘマトクリット、ヘモグロビン、検尿、便潜血、血算、肝機能、眼科検診、上部消化管診断

【吸収】90%以上 (11)

【F】初回通過効果はほとんど受けない (11)

【tmax】2hr (1)

【代謝】CYP2C9によって代謝(3が水酸化)される(9) 未変化体と代謝物のそれぞれ一部がグルクロン酸抱合される(1) 代謝物に活性はない(1)

【排泄】67%が腎排泄、尿中未変化体排泄率12% (3) 6%未満 (12) 50~70%がグルクロン酸抱合体として尿中に排泄され、未変化体はほとんど尿中に排泄されない (11) 【非腎CL/総CL】90% (10)

【t1/2】2hr (U) 2~4hr (2) 4hr (8) 3~4hr (12) 【透析患者のt1/2】健常者と同じ (12, Am J Hosp Pharm 37: 956-958, 1980)

【蛋白結合率】90% (6) 85~97% (8) 99% (11)

【Vd】1.3L/kg (11)

【MW】241.3

【透析性】蛋白結合率が高いため投与量の0.2%しかHDで除去されない (Am J Hosp Pharm 37: 956-958, 1980) HD, PDともに除去されない (4)

【透析CL】8.1mL/min と低い (3)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない 【O/W係数】LogP=2.7 [1-オクタノール水系 (第2液 pH6.8)] (1)

【更新日】20200408

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。